

エコタウン YAITA!

▶カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量をゼロにするのではなく、森林などによる吸収量を考慮して、それらの合計を実質ゼロにすることです。

近年、地球温暖化に起因すると言われる大型台風や集中豪雨が頻発しています。温暖化の要因は、人間活動による二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの排出増加によるものです。日本を含む世界では、温室効果ガスの実質的な排出量をゼロにする脱炭素社会を目指し、カーボンニュートラルへの取り組みが加速しています。

今号では、環境に配慮した本市や事業所などの実践事例のほか、皆さんが気軽に取り組むことができるエコな活動をご紹介します。

1人ひとりが環境について考え、毎日の暮らしを少しずつエコにしていけば、それは大きな力になります。市・事業者・市民の皆さんが力を合わせて、環境に優しい都市「エコタウン YAITA」をつくっていきませんか。

▶矢板市「2050年ゼロカーボンシティ」宣言
本市は、令和3年度に矢板市環境基本計画を策定し、政府が目指す「2050年カーボンニュートラルの実現」の推進に向けて、4月15日付けで「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。



市環境基本計画



市ゼロカーボンシティ



市では、こんなことやってます！

LED 照明の設置

公共施設の照明について、長寿命で省エネルギー性に優れた LED 照明の使用を進めています。

現在、市子ども未来館（イケボス池田キッズハウス）内で使用しているほか、令和6年度開業予定の文化スポーツ複合施設は、全量 LED 化に加え、建物の断熱性能を向上した省エネルギー施設を予定しています。



ペーパーレスの推進

内部事務処理の電子化を進め、ペーパーレス化による紙使用量の削減のほか、事務効率化による生産性の向上を図ることで職員の働き方改革にも努めます。

昨年度中に先行して電子決裁を導入した財務会計事務に続き、今年度は行政文書の電子化など全庁的な取り組みを進めていきます。



マイクロ水力発電の導入

自然エネルギーの利活用として、小水力発電会社 DK-Power（ディーケー・パワー）と協定を締結し、寺山浄水場の敷地を同社に貸し出すことで、当浄水場に流入する水の高低差を利用した水力発電に取り組んでいます。

令和3年度は約10万kwhを発電しました。



みんなが主役 SDGs

地球温暖化は自然災害による直接的な影響だけでなく、経済活動・雇用・健康福祉など多岐にわたって影響を及ぼします。

世界が抱えるさまざまな課題を解消するために、全ての主体が主役となって取り組む国際共通の目標である SDGs の達成には、カーボンニュートラルの推進が欠かせません。

SDGs の達成のためにも、日ごろからエコな取り組みを心掛けましょう。

気候変動対策に関する問い合わせ/
生活環境課 ☎ (43) 6755



* SDGs : 「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、17の目標で構成された国際共通の目標

1人ひとりができる『ちょいエコ』

身近なことから気軽にできる『ちょいエコ』を紹介し、エコタウン YAITA を目指して、できることから始めよう！

照明はこまめに消す
使用していない電気を消して、省エネするナリ。

新しいワークスタイル
在宅ワークは、移動手段にガソリンなどを使用しないため CO₂ 削減につながるナリよ。

冷暖房の設定温度
省エネを意識した温度設定を徹底し、寒さ暑さは衣服で調整するナリ。

省エネ家電への買い替え
家電の購入の際には、省エネ性能の高いものを選ぶナリよ。

4R とは…
REFUSE (リフューズ)
不要なものを「いりません。」と断ること。
REDUCE (リデュース)
ゴミを減らすこと。
REUSE (リユース)
まだ使えるものを繰り返し使うこと。
RECYCLE (リサイクル)
資源としてまた利用すること。

食品ロスを軽減する
食べきれぬ量で食事をすればゴミが減らせるナリよ。

冷蔵庫の開閉は速やかに
庫内温度の変化を減らし、節電するナリ。

使用していないコンセントは抜く
外出時や就寝時の省エネ活動ナリ。

買い物にはエコバック
余計な包装は断り、繰り返し使えるエコバックを使うナリ。

ゴミの分別
ゴミの減量につながる 4R の取り組みナリよ。

詰め替え商品の購入
詰め替え商品で無駄なゴミを出さないナリ。

生ごみは水を切る
水を切ると水分が減って、ゴミの減量につながるナリよ。



事業所や団体では、こんなことやってます

株式会社 グリーンヘリテージ

「省エネ・創エネでエネルギー削減率 100%」

ゴルフ場時代から、「食とエネルギーの自給自足」をテーマに事業を展開してきました。

100ha の雄大な敷地を有効活用し、有機野菜を栽培してレストランで提供するなどの農業の 6 次産業化のほか、間伐材を使用した薪ボイラーでの給湯や太陽光パネルでの発電による創エネにも取り組んでいます。

また、館内照明の LED 化やエアコンの高性能化を行うなど省エネにも力を入れています。なお、効率的な省エネ対策のため、リアルタイムで電気使用量を可視化するシステムを導入しています。

このような取り組みの結果、エネルギー削減率 100% に成功し、CO₂ 排出削減に貢献することができています。

▶ 市内一般世帯 (約 11,000 世帯分) の電気をカバーできる太陽光パネル。
※年間約 41,000 千 kWh の発電量



58 ロハスクラブ 代表取締役 小森 寿久さん

▶ 安沢地内で、レストランやキャンプ場などを併設した複合施設の運営をされています。



詳しくはこちら

矢板市林業・木材産業成長化推進協議会

「森林の循環利用で脱炭素社会へ」

伐採後の植林や間伐などを行い、CO₂ の吸収源となる森林の管理を通してカーボンニュートラルに取り組んでいます。



矢板市林業・木材産業成長化推進協議会の皆さん

▶ 官民共同で地域森林資源の循環利用による、地域経済の発展に向けた事業展開をしていくために、市や市内の素材生産事業者・製材加工事業者で構成された団体です。



詳しくはこちら

